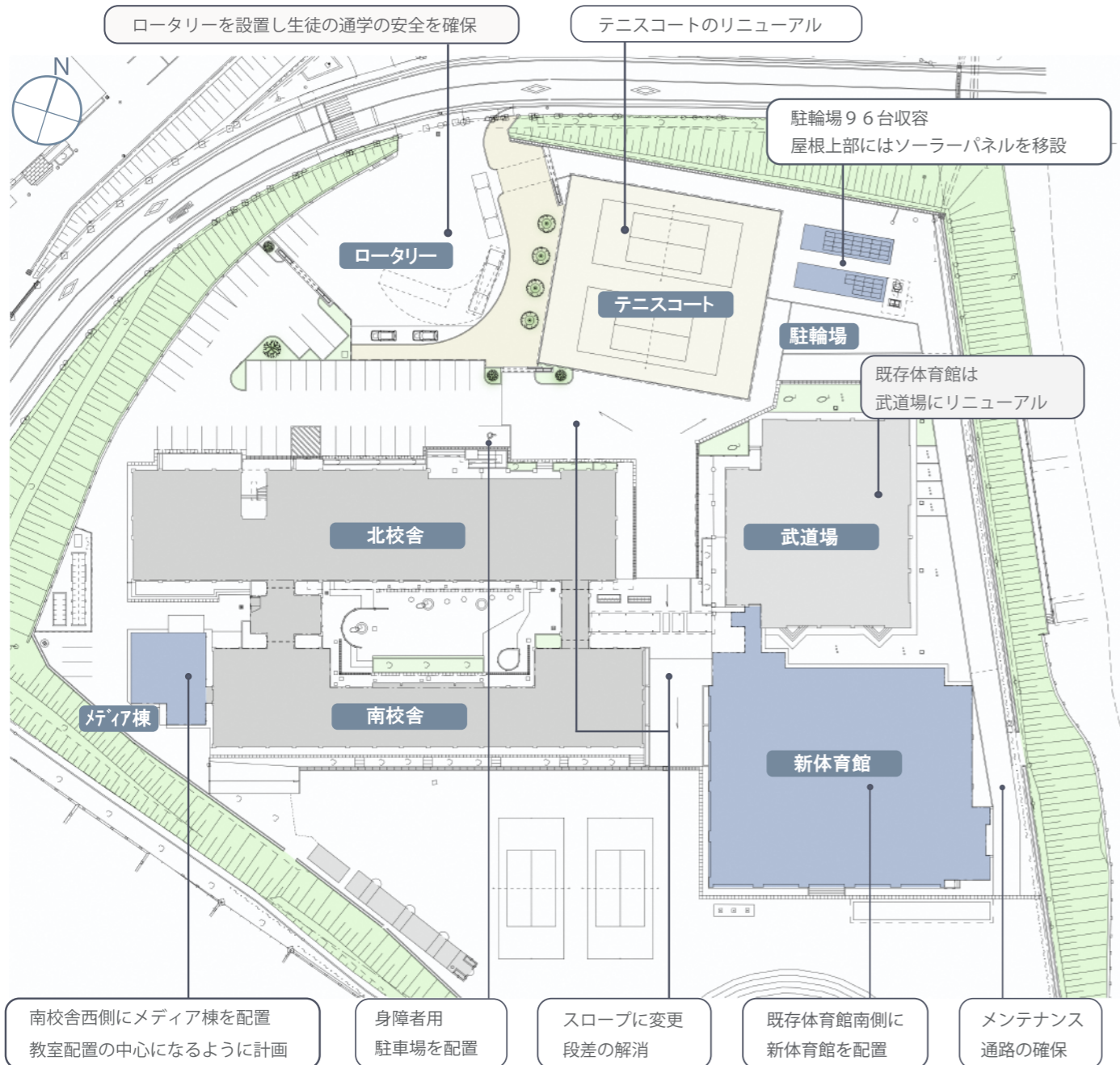


5つの設計指針

- **学校施設の長寿命化** 耐久性・メンテナンス性・更新性等に配慮した材料、しつらえ、省エネ器具や節水器具の採用で環境負荷の軽減を図ります。
- **教育環境の向上** カリキュラムの変更や、教育形態の変化に柔軟に対応できる計画とします。教室へのエアコン設置、多目的室の配置、トイレのリニューアル等、生活環境の向上を図ります。
- **安全で魅力的なアプローチ計画** バス・自転車・徒歩の生徒がそれぞれ安全に通学できるアプローチ計画とします。ロータリーには4本のシンボルツリーを設け、新中学の顔づくりをします。
- **情報化教育への対応** 教育の情報化に対応する、図書室・視聴覚室が連携したメディア棟を設けます。情報通信技術を活用し、一斉学習に加え個別学習や協働学習を促進します。
- **広域避難所としての利用への配慮** 新体育館は避難所として必要な耐震性を確保します。通風・採光の自然エネルギーの利用、ユニバーサルデザインの導入、情報・通信環境の整備など避難生活に配慮した計画とします。

配置計画

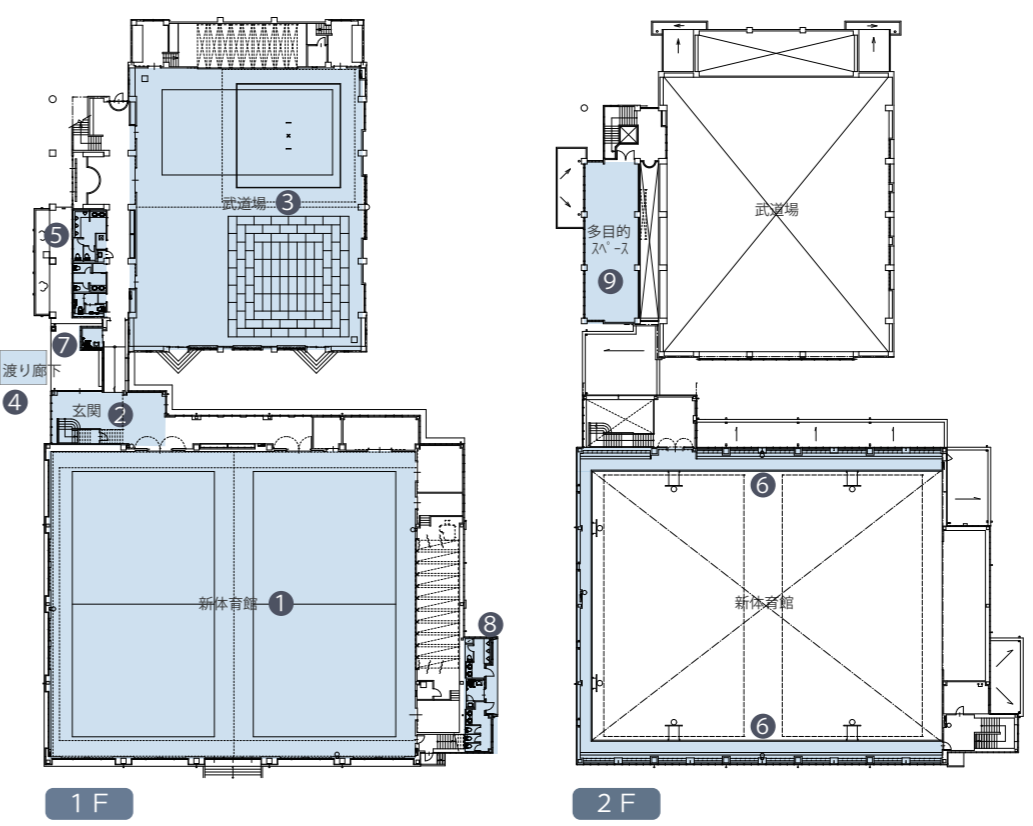


校舎平面計画



- 1 統合後の生徒数に対応した下駄箱数量を確保。
- 2 玄関にスロープを設置し車椅子利用者に配慮。
- 3 金工室を小会議室 × 3に変更。個別学習など多用途に利用。
- 4 市内小中学校の事務員用の共同事務室を設置。
- 5 相談室をプライバシーを確保した2部屋の個室に分割。
- 6 特別支援学級を2クラス分確保。
- 7 メディア棟1階には、図書室を設置。
- 8 各学年に男女それぞれ1部屋ずつ更衣室を設置。
- 9 図書室を美術室に変更。
- 10 各学年に1部屋、個別学習・協働学習等の多様な教育形態に対応する多目的室を設置。
- 11 全てのトイレを和式から洋式に改修。
- 12 メディア棟2階には、視聴覚室を設置。内部階段を設置し図書室との連携を図る。

体育館平面計画



- 1 新体育館は、公式バスケットボールコート2面分とバレーボールコート約3面分の広さを確保。
- 2 玄関ホールは新体育館と武道場を接続。
- 3 武道場には柔道場・剣道場を設置。その他バレーボール、卓球台スペースを確保。
- 4 新体育館と校舎棟にアプローチ可能な屋外渡り廊下を設置。
- 5 武道場のトイレを和式から洋式に改修。
- 6 新体育館の2階には観覧席を設置し玄関ホールから直接アプローチ可能。
- 7 車椅子用トイレを設置。
- 8 屋外トイレの設置。
- 9 武道場2階は多目的スペースに改修。



新体育館 外観イメージ



敷地全体イメージ



メディア棟 外観イメージ

	床面積	構造
既存校舎棟	5,043.30 m ²	RC造
メディア棟	328.75 m ²	S造
武道場	1,132.66 m ²	RC造
新体育館	1,988.23 m ²	S造

※実施設計段階での案であり、その後の工事にて変更する可能性があります。

下田中学校 実施設計概要版

株式会社 池田建築設計事務所

